

事業報告 （令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）

設立の目的及び概況

【設立の目的】

ヒロシマ平和創造基金は、人類最初の原爆の惨禍を体験した広島市民の平和への願いと使命感を高め、さまざまな平和活動および国際交流、協力活動などの推進や支援を目的に2012（平成24）年2月1日に一般財団法人として設立されました。同年8月6日に国から公益財団法人の認定を受け、平和及び国際交流活動に取り組んでいます。

【事業の概況】

ヒロシマ平和創造基金が取り組む事業は「平和活動」と「国際交流活動」の2つのカテゴリーに分かれ、7つの推進・支援事業を行っています。

「平和活動」は4事業。ヒロシマの心を視覚的にアピールするポスターを通じ国内外へ平和を訴える「ヒロシマ・アピールズポスター」、中国新聞社のヒロシマ平和メディアセンターと連携し行う「ヒロシマ情報の多言語発信」、県民の草の根的な活動を助成する「ヒロシマピースグラント」、そして「ひろしまフラワーフェスティバル」です。

もう1つの柱である「国際交流活動」は3つの事業から成ります。「国際交流フェスティバル（ぺあせろべ）」は、国際交流活動に携わる市民団体等と協力し、バザーや芸能、ゲームなどを通して広島在住の外国人と市民の交流を図る事業です。「ヒロシマ・スカラシップ」は音楽・美術・工芸等の芸術を学ぶ若者の奨励を目的とし奨学金を支給します。「国際交流奨励賞」は、国境を越えて地道な平和・交流活動を続ける市民団体や個人を表彰します。

「ヒロシマ情報の多言語発信」を除く6事業は、当基金の公益財団法人認定を機に財団法人広島国際文化財団の取り組みを引き継ぎました。これからも同財団と連携しながら、平和につながる活動を積極的に推進、支援していきたいと考えています。

【実施事業】

1. 第46回ひろしまフラワーフェスティバル関連事業（4～5月）

平時は広島市の平和大通りなどで5月3～5日の3日間開催され約160万人の人出で賑わうひろしまフラワーフェスティバル（FF）。コロナ禍で2022年度まで縮小開催だったが4年ぶりに平和大通りでのパレードやステージイベントを復活させ、フルバージョンでの開催となった。2023年5月のG7サミット広島開催のため、日程を変更して6月10～11日の2日間の開催となり、当基金は花の塔およびフラワーキャンドルの設営、花のモニュメントの2事業を実施した。2日間の人出は約120万人。

2. ヒロシマ情報の多言語発信（通年）

中国新聞ヒロシマ平和メディアセンターのウェブサイトを通じて、2021～2022年に続き2023年度も閲覧数の多い英語圏の読者向けに、2020年度に新聞協会賞を受賞した「ヒロシマの空白」に関する記事と画像を英訳して情報発信した。加えてウクライナ情報の発信にも注力した。今後も多言語発信事業を広く市民に知ってもらい、2014年に創設した「平和サポーター寄付金制度」の寄付を受け付け、コンテンツの充実とより多くの情報発信を行う。

3. ヒロシマ ピースグラント 2023（6～7月）

1995 年の被爆 50 年を機に中国新聞社が寄託した基金をもとに広島国際文化財団が被爆体験の継承と平和創造のための活動を支援する目的で創設した助成制度で、2013 年度から当基金がこの事業を引き継ぎ、助成対象を公募している。29 回目（基金事業としては 11 回目）の 2023 年度は、27 団体、4 個人から申請があり、選考の結果、下記の 11 団体、2 個人に助成金を贈呈した。

【団体】

▽広島文学資料保全の会（広島市・土屋時子代表）▽みんなで伝え合おうヒロシマ・ナガサキ～広島の会（広島市・叶真幹代表）▽スーザン・サザード氏招聘実行委員会（東京都板橋区・宇治川康江代表）▽（一社）まち物語制作委員会（広島市・福本英伸代表）▽響け！平和の鐘実行委員会（広島市・高東博視代表）▽ヒロシマ通信研究会（広島市・宇吹曉代表）▽世界のヒバクシャと出会うユースセッション（呉市・瀬戸麻由代表）▽River Do! 基町川辺コンソーシアム（広島市・西川隆治代表）▽東京大学大学院渡邊英徳研究室（東京都文京区・片山実咲代表）▽被爆体験を継承する会（広島市・甲斐晶子代表）▽ひろしま音読の会（広島市・佐藤千佳砂代表）

【個人】

▽野元祥太郎さん（広島県）▽笹本志穂さん（東京都）

4. ヒロシマ・アピールズポスター2023（7～8月）

世界平和を希求する「ヒロシマの心」を視覚で訴えるポスターとして 1983 年に制作開始。公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA）と広島国際文化財団が共同で毎年 1 作品を制作。1989 年の 7 作目の後休止していたが、2005 年に再開し継続している。当基金は 2013 年度から事業に加わっている。

通算 27 作目となる当期は、東京都渋谷区のグラフィックデザイナー中村至男氏が担当、タイトルは「人差し指」。ビルが立ち並ぶ都市を人間の巨大な指先が今にも押しつぶそうとする様子を描き、ロシアによるウクライナ侵攻が続く中、混迷を深める世界情勢、核兵器を巡る緊張感を表現。例年通り松井一實広島市長に寄贈した。また、5 月に行われた G 7 広島サミットでは歴代ポスターを国際メディアセンターに展示した。

5. ヒロシマ・スカラシップ 2023 海外留学奨学金・中村音楽奨学金（10 月）

広島県在住者または出身者で、海外や国内でさまざまな芸術の分野にチャレンジする若い芸術家たちに奨学金を支給する制度。助成対象は公募している。「海外留学奨学金」（音楽を除く芸術全般）と「中村音楽奨学金」（音楽分野に限定）の 2 部門があり、1 人につき年間 36 万円の奨学金を最大 2 年間支給する。

海外留学奨学金＝分野は特に定めない。

2023 年度は 5 人の応募があり、松浦正樹さん(21)＝アメリカ・ボストン大学カレッジオブアーツ＆サイエンス留学、比較宗教学（美と聖性の問題）専攻が選ばれた。

中村音楽奨学金＝修学先は国内・海外を問わない。

2023 年度は 15 人の応募があり、岡田柚香さん(25)＝スイス・ベルン芸術大学大学院修士課程留学中、ピアノ▽若狭悠太さん(26)＝ドイツ・ハンブルク音楽院声楽教育学科留学中、声楽▽森脇恵厘花さん(20)＝エリザベト音楽大演奏学科在学中、ヴァイオリンの 3 人が選ばれた。

6. 国際交流フェスティバル「ぺあせろべ」(2024 年 1 月)

広島在住の外国人家族や留学生らと市民が集い、食や遊びを通して互いの文化に触れ、国際交流を図る狙いで 1984 年から開催されているがコロナ禍により 2020～2022 年は中止とした。2023 年度はサッカースタジアム建設のため会場・時期を変更し、2024 年 1 月ゲートパークプラザ（中区基町・旧市民球場跡地）での開催となった。当日は晴天に恵まれ約 1 万 5000 人が来場、13 団体のステージ、24 団体のブースで賑わった。

7. 国際交流奨励賞 (2024 年 1 月)

平和創造の願いを実現するための国境を越えた地道な市民交流活動を奨励しようと、1998 年に広島国際文化財団が創設した表彰制度。ヒロシマ平和創造基金が公益財団法人に認定されたのを機に事業を引き継いだ。

2023 年度は、5 団体 5 個人の応募があり、次の 2 団体を選んだ。

▽NPO法人広島写真保存活用の会（広島市・松浦康高代表）＝広島の被爆と復興を紹介する写真展示を行い、公的施設が保存する写真活用のための連携データベース構築と活用窓口設置を目指す活動（15 年）▽広島平和ミュージカル実行委員会（広島市・黒瀬真一郎代表）＝佐々木禎子さんの折り鶴が米ハワイ州真珠湾のアリゾナ記念館に寄贈、永久展示されることをきっかけに生まれた現地少年少女によるミュージカル「PEACE ON YOUR WING（平和は翼に乗って）」の広島開催。広島の中高生との国際交流。収益の一部を寄付（5 年）。

3 月 5 日に表彰式を行い、岡畠理事長から表彰状と奨励金を贈呈した。

以上